

伊賀の自然

第17回



『カジカ』



カジカ：撮影 武田恵世

これは溪流にすむ魚、カジカです。まとめてゴリと呼ばれているカジカ科の魚の代表です。口と頭が大きく、眼が上向きについており、胸びれも大きく、カジカ科の似た魚でカワヨシノボリやドンコとは頭が丸っこいことなどで区別できます。溪流の石の多いところに生息し、水生生物を主食としています。石に擬態しながらじっとして、獲物が通りかかると素早く飛び付いて捕まえます。青山高原の溪流には比較的まだ多くいるようです。姿のわりに味が良く、アユやアマゴよりも美味しいと言う人もいます。

金沢ではカジカ科の魚をゴリ押しして捕っています。川底の石を板などでゴリゴリ無理やり押し、下流に網を仕掛けておいて捕る漁です。「ゴリ押しする」とは、この漁から来ている言葉です。伊賀ではカジカは最近減っているのであまり捕らないようにしてください。

伊賀の山並み 住塚山と国見山

向かって右端に見えるのは住塚山と国見山です。右が住塚山、左が国見山で、重なって富士山型に見えます。この辺りは室生火山群という火山群があったので、この山がその時にできた火山かということ、実は火山の芯のところが残っているだけで、偶然火山型をしているだけだそうです。当時の火山は、はるか上にあったようです。巨大な富士山型の火山があったのか？ 乗鞍岳や御嶽山のような火山があったのか？ 色々と想像すると楽しいものです。



住塚山と国見山 向かって右端

武田恵世

歯科医師、歯学博士 伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議 レッドデータブック作成委員会 委員長。環境省希少野生動植物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会 会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」(アットワークス刊)などがある。